

【下書き1】

提案します わたしたちにできる
「プラスチックの3R週間」

■知っていますか プラスチックごみの問題

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。たとえば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができています。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くくえいきょうをあたえていることに非常におどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったのが、2014年には3億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

プラスチックは時間がたつと分解されてなくなるだろうと考えている人がいるかもしれません。けれども、

■みんなで減らそう プラスチックごみ

わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前のようを使うという考えを改め、プラスチックごみを減らすためにできることをしたいと思いました。そこで、わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」を提案します。3Rとは、ごみそのものを減らすリデュース (Reduce)、くり返し使うリユース (Reuse)、ごみを資げんに変え、再び利用するリサイクル (Recycle) のことです。

わたしたち一人一人の力はとても小さいかもしれませんが。しかし、その力が積み重なれば大きなものになります。大切なことは、行動することです。

- ④ 全体を要約した文章を最初に書いている。
- ③ 行動することの重要性を最初に書いている。
- ② 身近にある具体例を最初に書いている。
- ① 疑問に思ったことを最初に書いている。

一 岩田さんは、読者にプラスチックごみの問題を自分のこととしてとらえてほしいと考
え、構成を工夫し、「下書き1」の最初に
の内容を書いています。その工夫
として最も適切なものを、次の①から④の中
から一つ選んで、その番号を書きましょう。

問題

岩田さんの学級では、生活の中で気になったことについて調べています。岩田さんは、プラスチックごみの問題について調べ、ごみを減らすための行動について学級の友達に提案することにしました。次は、岩田さんが書いている文章の「下書き1」です。これをよく読んで、後の問題に答えましょう。

ポイント

わけをはつきりとさせて構成を工夫することが大切です。

たしかめよう

組
名前

国語

課題チャレンジ

目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して書こう

対象学年

5・6年生

【本の一部】

「プラスチックのひみつ」という題名の本

◇ プラスチックを賢く使おう

プラスチックは、軽くて丈夫で持ち運びがしやすいえ、さまざまな製品に加工することができます。わたしたちの生活を見回してみると、プラスチック製品はどんどん増えていて、生活になくってはならないものとなっています。

こんなに便利なプラスチックですが、実はプラスチックの多くは自然には分解されません。植物や動物などから作られるものは、土や水の中で微生物によって分解され、なくなってしまいます。しかし、わたしたちの身の回りで使用されているプラスチックはほとんどが石油から作られているので、自然の中では分解されません。そのため、ずっと残ってしまうのです。

ポイント

信頼性の高い本の言葉を使って書くと、文章の説得力が増します。その時は、必ず出典を示しましょう。文章中で示す場合は、「」を使って本の題名を書きましょう。

《条件》

○【本の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。

○岩田さんが、何という本から取り上げて書いたのかわかるように書くこと。

○書き出しの言葉に続けて、三十字以上、八十字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字数に含む。

二 岩田さんは、【下書きの一部】の に、プラスチック

がずっと残ってしまう理由を書くことにしました。そのために資料を探し、本を見つけました。次は、その【本の一部】です。 に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

け	れ	ど	も	,	◆														

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

提案する文章は、読み手に提案を受け入れてもらい、実際に行動に移してもらうことが目的です。そのために、岩田さんは、プラスチックごみの問題を自分のこととしてとらえてほしいと考え、身近にある具体例を最初に書いています。また、プラスチックがずっと残ってしまうことの説得力を高めようと、信頼性の高い本に書かれていることを根拠として書こうとしています。

このように、目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して書くことができるとすばらしいです。

【緑のカーテン作りへの協力のお願い】

緑のカーテン作りへの協力のお願い

6年1組 森・中村・秋山

緑のカーテンとは

夏が来ると、教室が暑くなってこまったことはありませんか。わたしたちは、それを解決するために緑のカーテンを作ることになりました。

緑のカーテンとは、まどの外に植えた朝顔などの植物で、日ざしをさえぎるようにしたものです。緑のカーテンを作ると教室をすずしくすることができます。

中には布のカーテンをしめればよいという人もいるかもしれませんが、しかし、緑のカーテンを使うと布のカーテンよりも室内の温度を下げるができます。例えば、

緑のカーテンは、夏をすずしく過ごすためのくふうの一つなのです。

緑のカーテンの作り方

わたしたちは、できれば1階から3階までの全教室をおおうように緑のカーテンを作りたいと考えています。そこで、次のように作ろうと思っています。

- 1 大きな植木ばちを用意し、肥料と土を入れて1階に置く。
- 2 1階から3階までネットをはる。
- 3 アサガオの種をまく。
- 4 たくさんの水をやる。
- 5 一番太いつるが1mぐらいになったら先の芽を切る。
- 6 芽が分かれてのびてきたらネットにまきつける。
- 7 7月になったら肥料を追加する。

水やりに協力してくれる人をぼ集めます

問題

森さんたちは、「緑のカーテン」を作るため、同じ学年の友達に協力してほしいと思い、次の「緑のカーテン作りへの協力のお願い」を書いていきます。これをよく読んで、後の問いに答えましょう。

一

森さんたちは緑のカーテンを知らない人にも、緑のカーテンが必要な理由を伝えようと、文章の構成を工夫しました。その工夫として最も適切なものを、次の①から④までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- ① 夏の教室が暑いとどう困るかの具体例を最初に書いている。
- ② 最初と最後の段落に、水やりに協力してほしいということを書いている。
- ③ 緑のカーテンの作り方について要約した文書を、最初に書いている。
- ④ 緑のカーテンの説明を、緑のカーテンの作り方の前に書いている。

二

森さんたちは、次の【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために、本に書かれていることをもとにして、の部分を書こうと考えました。次は、「緑のカーテンを始めよう」という【本の一部】で、の部分に入る内容を、後の条件に合わせて書きましよう。

【友達の考え】

緑のカーテンでどれぐらいすずしくなるのかなあ。私は布のカーテンをしめればだいじょうぶだと思うよ。

